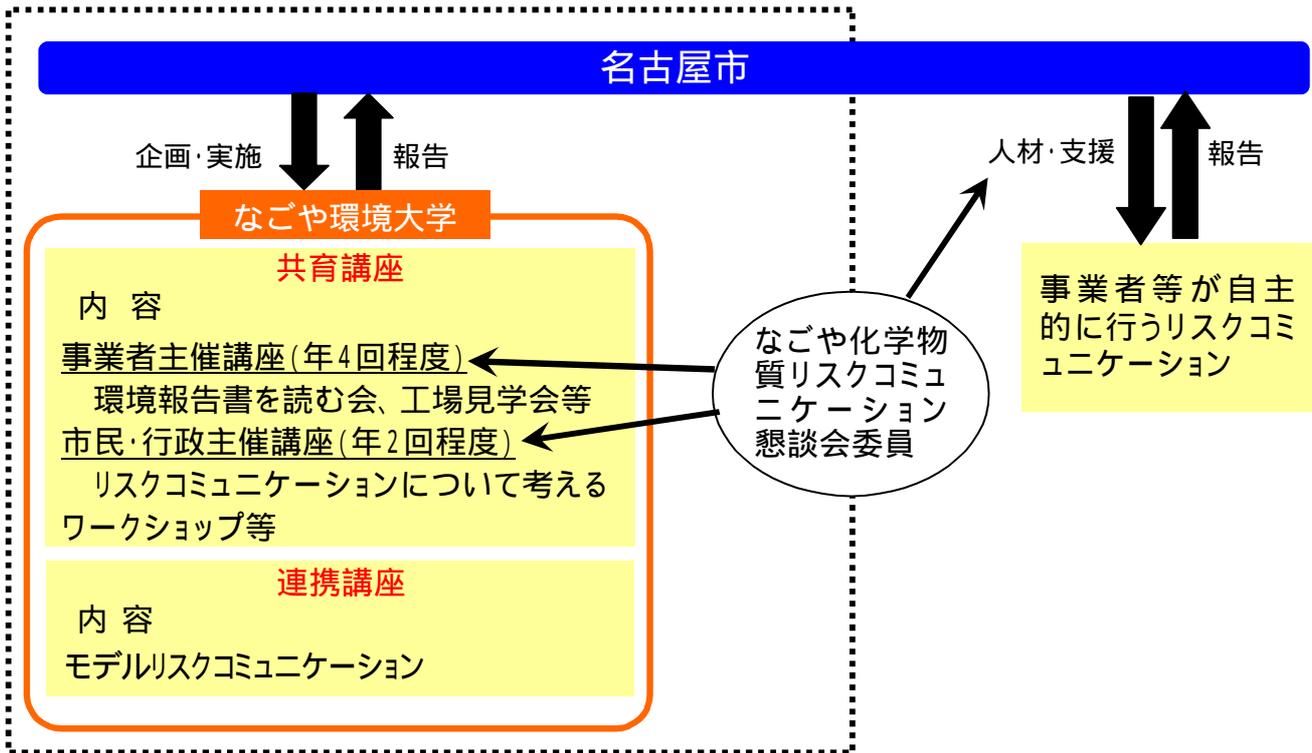


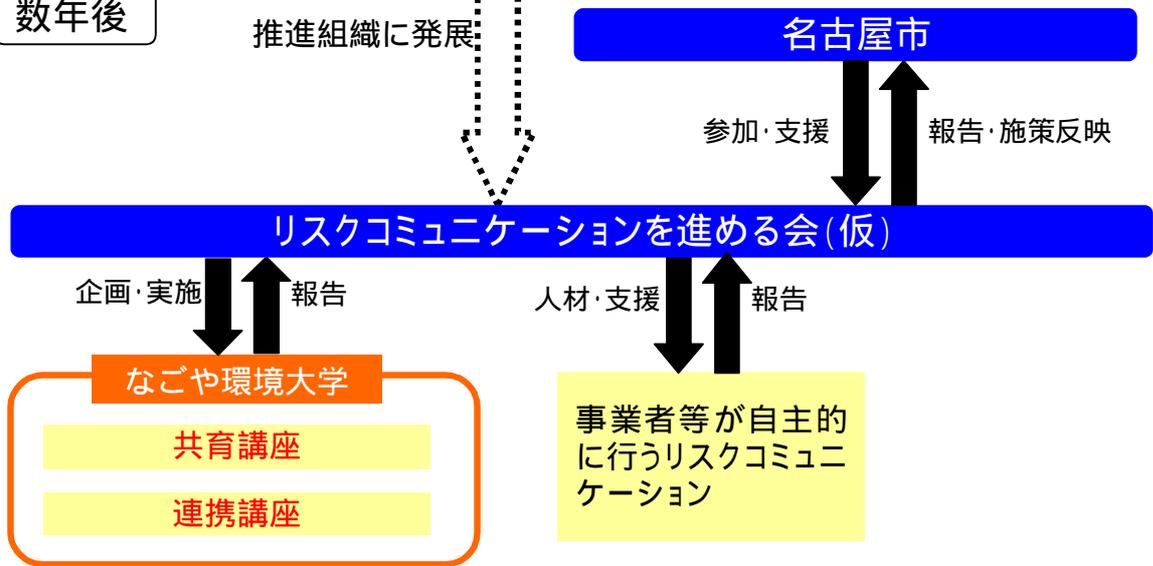
リスクコミュニケーションの普及について（案）

1 普及のための組織と事業

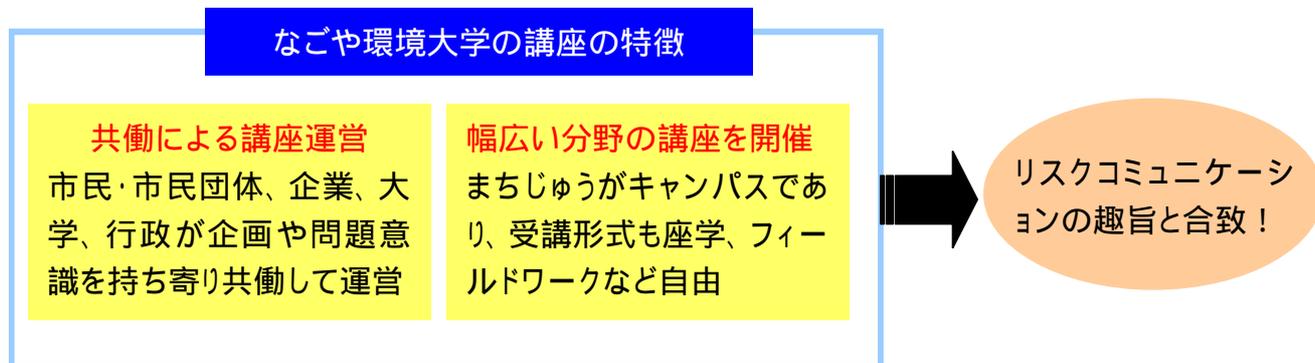
当初



数年後



2 なごや環境大学の活用



3 推進事業

(1) なごや環境大学共育講座

項目	事業者主催講座	市民・行政主催講座
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクコミュニケーションの体験 ・環境教育の推進 ・事業者にとっての社員教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクコミュニケーションの推進に関する名古屋市への提案
講座形態	座学、フィールドワーク、討論・ワークショップなど形式は問わない。	座学、討論・ワークショップ
講座内容	環境情報の公開が含まれていれば内容は問わない。 (例：環境報告書を読む会 工場見学会 講演会 など)	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルリスクコミュニケーションの報告会 ・リスクコミュニケーションの推進について考えるワークショップ 等
開催回数	年4回程度	年2回程度
事務局	名古屋市	

講座の例

名称：「見て、聞いて、一緒に考えよう！工場の環境対策」

概要：1事業者が講座の1回分を企画・実施し、最終回に参加者でリスクコミュニケーションの推進について考えるワークショップを行う。

開催回	講座形態、内容	講師
第1回	【座学】 「環境報告書を読んでみよう」	A事業者
第2回	【フィールドワーク】 「工場の環境設備を見てみよう」	B事業者
第3回	【座学】 「講演会 会社の環境対策について」	C事業者

第4回	【討論・ワークショップ】 「環境にやさしい製品を選ぶために」	D事業団体
第5回	【座学】 「モデルリスクコミュニケーション報告会」 【討論・ワークショップ】 「第4回までのとりまとめ」	市民 名古屋市 学識者
第6回	【討論・ワークショップ】 「リスクコミュニケーションでつくる地域の輪」	市民 名古屋市 学識者

(2) なごや環境大学連携講座

項目	内容	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者がリスクコミュニケーションを行う際のモデルとする。 ・市全体の化学物質対策の推進に役立てる。 	
内容	モデルリスクコミュニケーション (工場見学、環境への取組み報告、意見交換など)	
参加者	意見交換参加者	事業者、市民(地域住民)、行政、 ファシリテーター、インタープリター
	傍聴者	なごや環境大学講座受講者、一般公募
開催回数	年2～3回	
事務局	名古屋市	
その他	事業者からの報告を義務化	

4 支援事業

事業者等が自主的に行うリスクコミュニケーションについては、当初は名古屋市が、推進組織設置後は、推進組織が支援を行う。

(1) 人材の支援

リスクコミュニケーションを行いたい事業者等に人材の紹介を行う。

人材	選定方法
ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクコミュニケーションにおけるファシリテーターの経験のある方の情報を収集 ・ファシリテーションの技術を持つ方が、リスクコミュニケーションを経験する機会を提供
インタープリター	<ul style="list-style-type: none"> ・化学物質アドバイザー制度を活用

(2) 相談窓口の設置

リスクコミュニケーションの実施方法や地域交流に関して、アドバイスを行う。